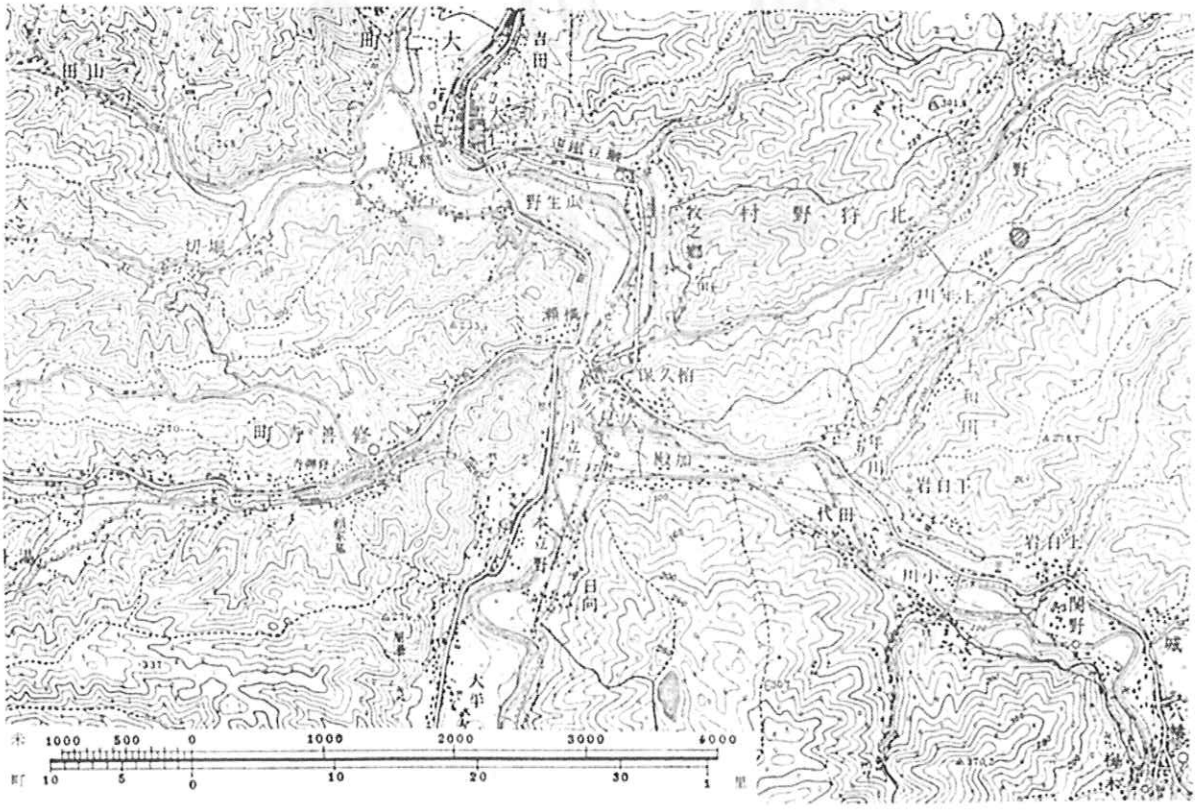
池　の　本

修善寺町史料集　第4集

1967

修善寺町教育委員会

伊豆国修善寺町池の本遺跡



第1図 遺跡の位置

所在地	静岡県田方郡修善寺町年川字池の本
調査期間	昭和 39 年 8 月 15 日～28 日
調査主体	修善寺町教育委員会
発掘担当者	笹津海祥　白石竹雄
発掘参加者	橋本　良雄・佐藤　攻・菅原　正明
	阿久津　久・鷲坂　樹（明治大学）
	沼津女子高校郷土研究部

I. 発掘調査に到る経過

昭和 38 年8月修善寺町柏久保から大仁町田原野に通ずる街道の側にある年川石灯塚の発掘調査が小野真一氏と白石によって行われた註。この際道を隔てた東側の丘陵上に早・前期の縄文土器が

散乱しているのが，小野氏によって発見された。

昭和 39 年，農業構造改善事業によって，この遺跡が消滅してしまうことになったので修善寺町教育委員会の依頼により，笹津・白石が担当者となって発掘調査を行うことになった。

本調査の実施に当って，種々の御配慮を煩わした修善寺町教育委員会及び同町文化財審議委員長倉紫朗氏，同相原隆三氏に感謝の意を表すると共に，報告書の作成が遅れ御迷惑を掛けた事を深くお詫びするものである。

（註．沼津女子高等学校　考古館報4）

II. 調査の概要

A. 地　　形

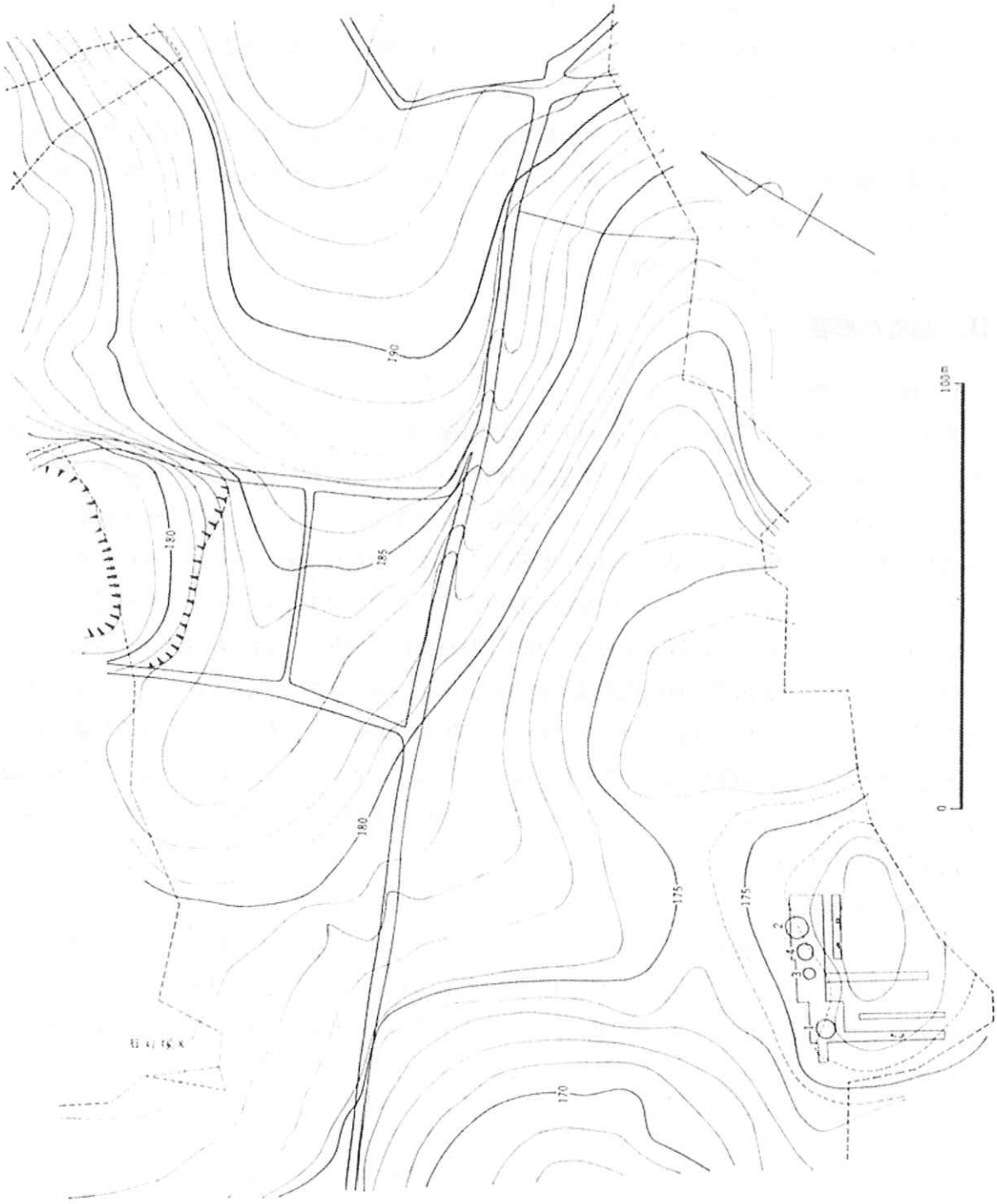
伊豆半島の東側には，箱根火山の外輪山と天城山塊の間に北から玄岳・果雲山・大室山・矢筈山等の火山が並んでいるが，この玄岳・果雲山の西側中腹に南北に断層線が走り，この断層線に沿って，北から田代・軽井沢・丹那・浮橋・田原野等の小盆地が連り，これらの盆地を中継点として，半島中央部の田方平野と東海岸との間に古い街道がいくつか存在する。本遺跡の所在する果雲山西麓の丘陵もその一つで，田原野・浮橋を経て伊東市宇佐美に抜ける街道がその陵線を通り，多くの道標や石塔が存在する。この陵線から標高 180m 付近で南に瘤状に突出した台地の北西斜面に遺構が発見された。この突出部の東西両側は比高差約 15 m の落込みで共に湧水がある。丘陵主体部と突出部の間に昭和5年伊豆地震の際に生じた 50～30 cm の断層が現存し，特に西側の落込みは，本来池であったのがこの断層の影響で一部が切れて現在は一番低い部分が湿地となっている。池の本の名称もこの池から起ったという。遺構が営まれた時代も恐らく池が存在し，池に面した斜面に生活が営まれたものであろう。

B. 遺跡の概要

発掘に当り突出部北側斜面に東西にAトレンチ（40×2 m）を設定，第1号住居址を発見，更に北に向ってBトレンチ（35×2 m），Cトレンチ（25×2 m），Dトレンチ（15×2 m・一部 25 m），を拡張し，第2号，第3号，第4号住居址を発見した。（PL. Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ，第 2，3，4 図参照）各住居址の規模は下表の如くである。

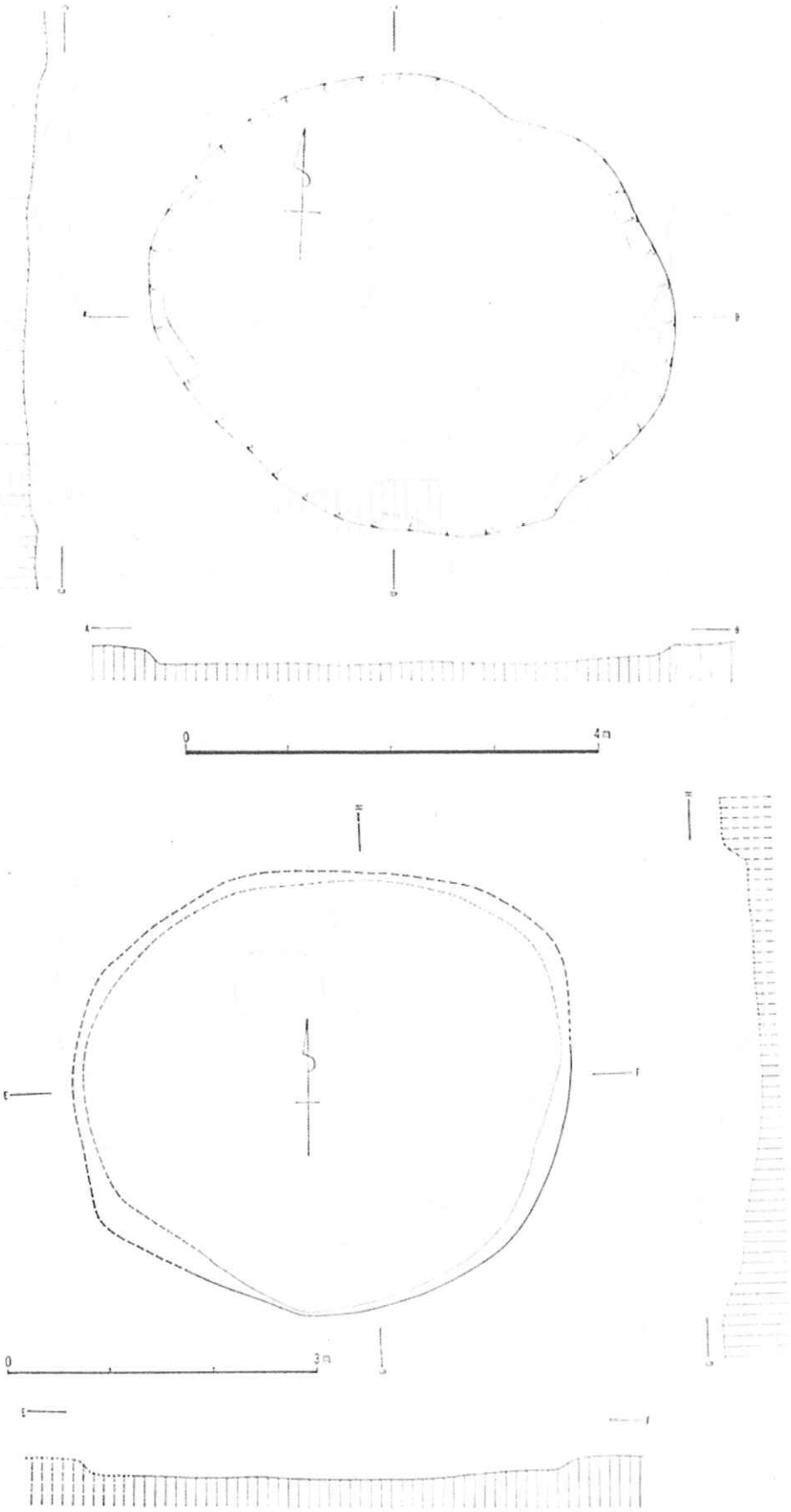
住居址	形　状	径	深　さ	主たる出土土器
No. 1	円形竪穴	505 cm	18 cm	押型文土器
No. 2	〃	483 cm	22 cm	〃
No. 3	〃	301 cm	32 cm	〃
No. 4	〃	459 cm	44 cm	諸磯式平行

即ち突出部の西北から北側斜面に 1～3 号の早期の三つの住居址が並び，この間に前期の住居址第4号が割り込んでいる形である。



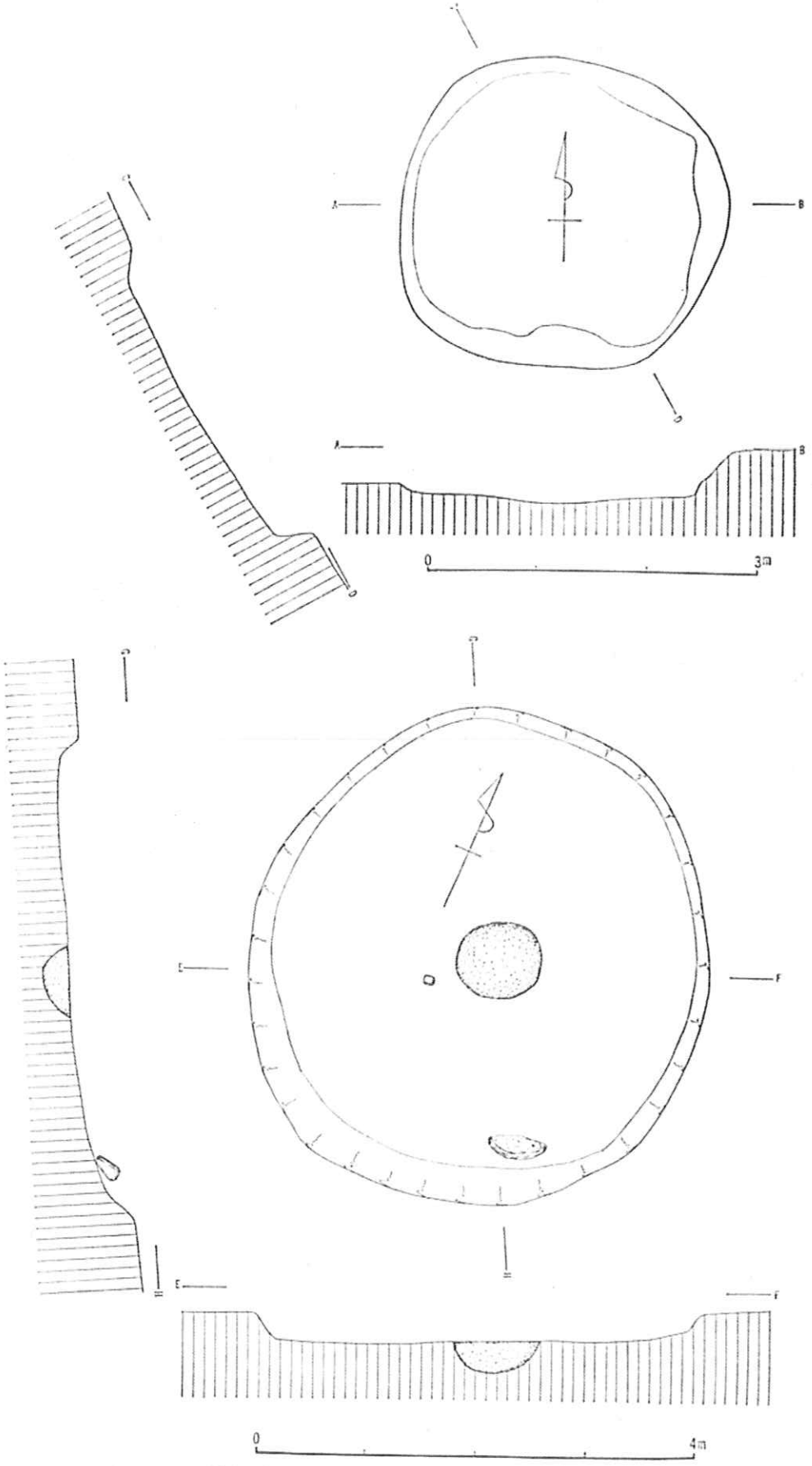
第2図 遺跡全体図

Aトレンチの南側に東西にXトレンチ（10×2m），Yトレンチ（東15×2m，西10×2m）を設定発掘し，更に南北にLトレンチ（23×2m），Mトレンチ（20×1m），Nトレンチ（25×2m）を設定発掘した。この結果Xトレンチ（東）で2ケ所，Lトレンチで1ケ所の焼土を発見した。特に



（上） 第1号住居址　（下） 第2号住居址

第3図 住居址実測図



（上） 第3号住居址　（下） 第4号住居址

第4図 住居址実測図

Lトレンチの焼土は大きく深く焼けて居り，周囲に早期土器も多く発見された。1～3 号住居址には炉址がなく，4号住居址は中央に炉址と思われる焼土があるので，3ケ所の焼土は 1～3 号住居址に伴う屋外炉と認められる。L，M，Nトレンチ及び丘頂部（表土ほとんどなし）の試掘によって，若しこれ以上住居址が存在するとすればAトレンチの東西両側ということになるが東側は一部試掘して存在しないことを確認したので，西側だけが問題になる。諸種の事情で調査出来なかったが，工事中遺物が発見採集され（長倉紫朗氏）ているので，住居址の存在した可能性が大で，誠に残念である。

四住居址共に柱穴が発見出来なかったが，4号住居址は調査不充分かも知れないが，1～3 号住居址には柱穴のないことは確実である。ただ第3号住居址は壁に沿って径 5cm 位の棒状の木炭が数ケ所存在したので，種的なものであるかも知れない。

C. 出土遺物

石器（PL. Ⅳ・Ⅴ）

石鏃　全て黒耀石製で，正三角形に近く，足の長いもの，長二等辺三角形で抉りの浅いもの又は抉りのないもの，丸味を帯びた五角形のもの等がある。

スクレイパー　PL. Ⅳ（1）の1点を除き全て黒耀石製で，サイドスクレイパーとエンドスクレイパーの両種がある。

ドリル　第2号住居址（PL. Ⅳ（2）），第4号住居址（PL. Ⅴ（2））にドリルが出土した。黒耀石製である。

剥片石器　黒耀石の小剥片の周囲に加工を加えたもので，片面加工が多い。

石斧　硬砂岩の礫の一部を研磨したものが3点，緑泥片岩の角礫の一部を研磨したもの1点がある。

玉製品　第1号住居址（PL. Ⅳ（1））から滑石製の有孔の玉が出土した。早期に伴うものかどうか不明である。

異形石器　第4号住居址（PL. Ⅴ（2））から1点，表採で1点Y字型の石器が発見された。チャート製である。

土器　本遺跡の主体をなす土器は山形押型文土器である。3～5mm の薄手で焼成良好な土器で口縁がや外反した尖底で，尖底部も薄く，乳房形をしている。

口唇の内外及び胴部に一条，横位に施文し口縁下から底部まで四条の押型文が縦位に施文されている。

この土器に伴って次の土器が出土している。

1. 楕円押型文土器

　米粒状の文様のはっきりした焼成良好な薄手の土器

　四角形に近い，文様の不鮮明な焼成粗悪な土器の2種類がある。

2. 格子目押型文土器

口縁が強く外反し，厚さ 8 mm の焼成のあまりよくない土器が1片出土している。

3. 撚糸文土器

撚糸文が縦位に施された厚さ 1 cm 内外の焼成のあまり良くない土器で，撚糸の条間の密なものと粗なものとがある。

4. 無文土器

厚さ 1 cm 内外で，胎土に繊維を含むものがあり，良成は粗である。

以上の外に第4号住居址から出土した前期土器がある。

黒耀石原石　第2号住居址から大量の黒耀石の原石及び剥片が出土した。又打痕のある礫や台石かと思われる石塊も発見された。

む す び

昭和 39 年発掘後一応の整理を行ったまま，筆者等の怠慢のため，遺物の詳細な検討が出来ぬまま時日が経過してしまった。このまま放置することも許されぬので，写真と実測図の公開を目的として本篇を公刊した。多大の御迷惑をかけた修善寺町教育委員会に深くお詫びするものである。

発行年月日	1968 年 3 月 20 日
発 行 者	修 善 寺 町 教 育 委 員 会 静岡県田方郡修善寺町774の2

図 版 目 次

PL. Ⅰ　住居址全景

PL. Ⅱ（1）　No. 1　住居址（早期）

PL. Ⅱ（2）　No. 2　住居址（早期）

PL. Ⅲ（1）　No. 3　住居址（早期）

PL. Ⅲ（2）　No. 4　住居址（前期）

PL. Ⅳ（1）　出土遺物―石器（1）……No. 1　住居址出土

PL. Ⅳ（2）　出土遺物―石器（2）……No. 2　住居址出土

PL. Ⅴ（1）　出土遺物―石器（3）……No. 4　住居址出土

PL. Ⅴ（2）　出土遺物―石器（4）……局部磨製石斧・その他

PL. Ⅵ（1）　出土遺物―土器（1）……No. 1　住居址出土

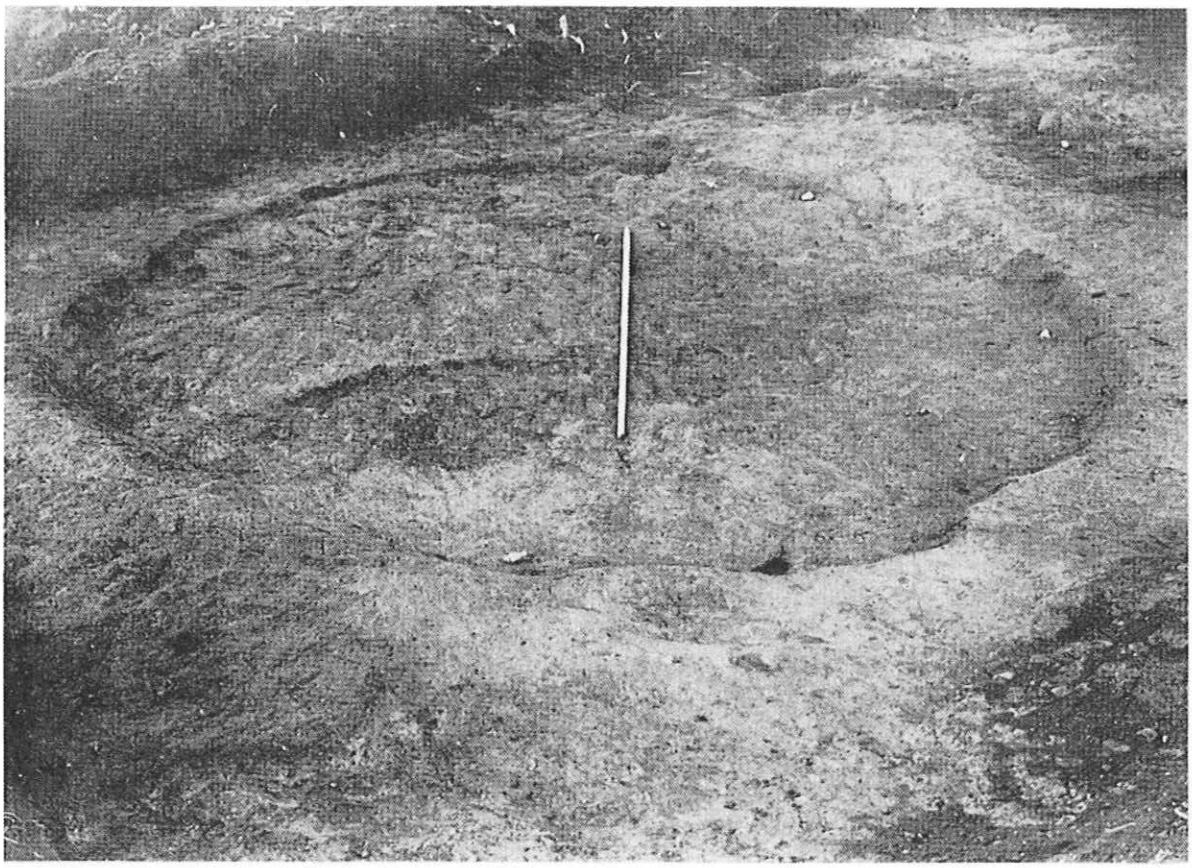
PL. Ⅵ（2）　出土遺物―土器（2）……No. 2　住居址出土

PL. Ⅶ（1）　出土遺物―土器（3）……No. 2　住居址出土

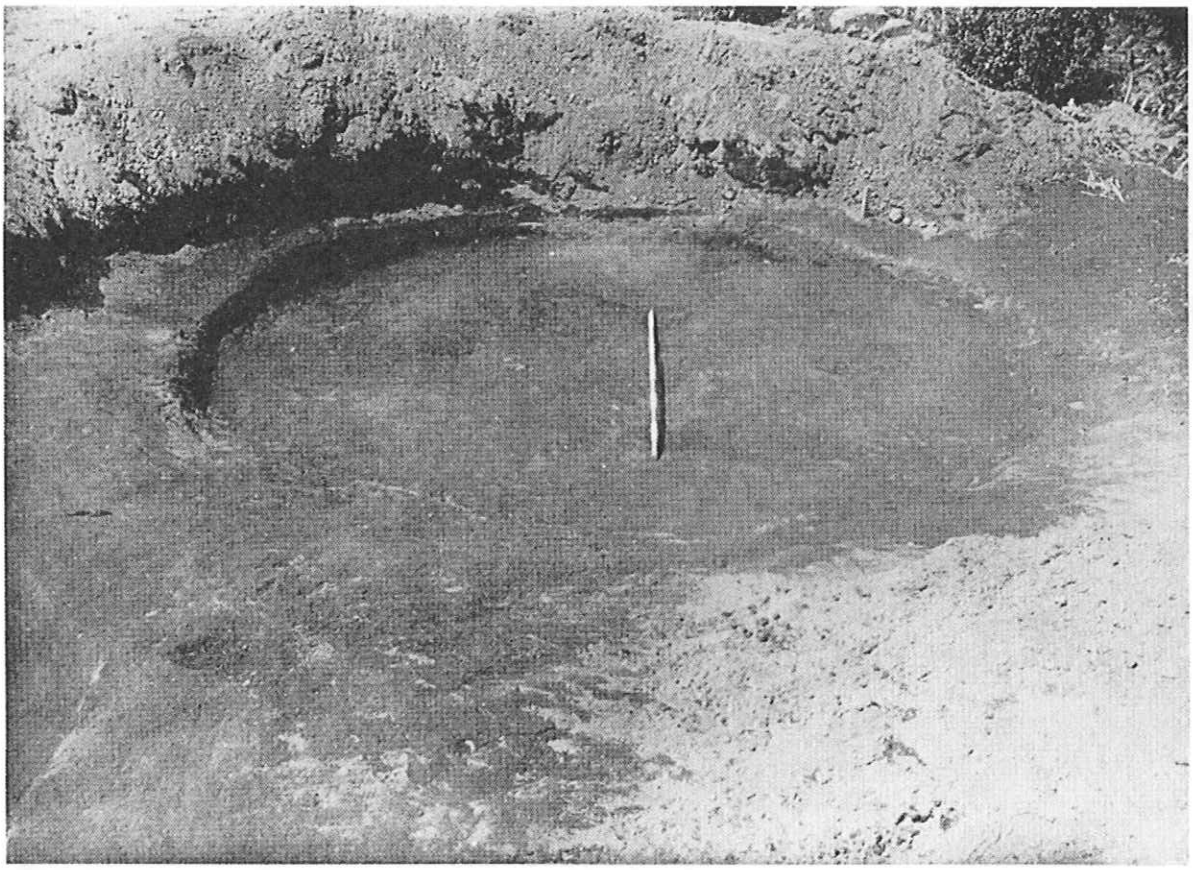
PL. Ⅶ（2）　出土遺物―土器（4）……No. 4　住居址出土

PLATE I

住居址全景

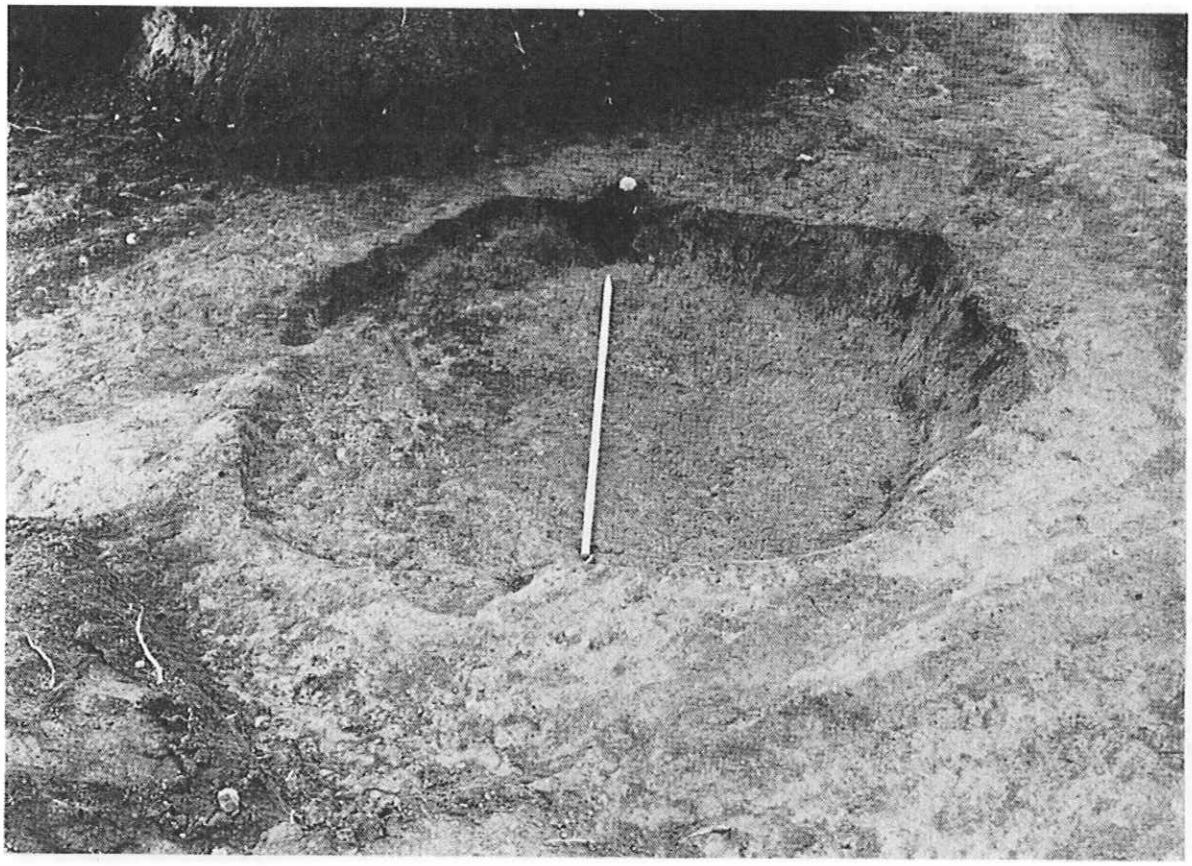


(1) No. 1 住　居　址

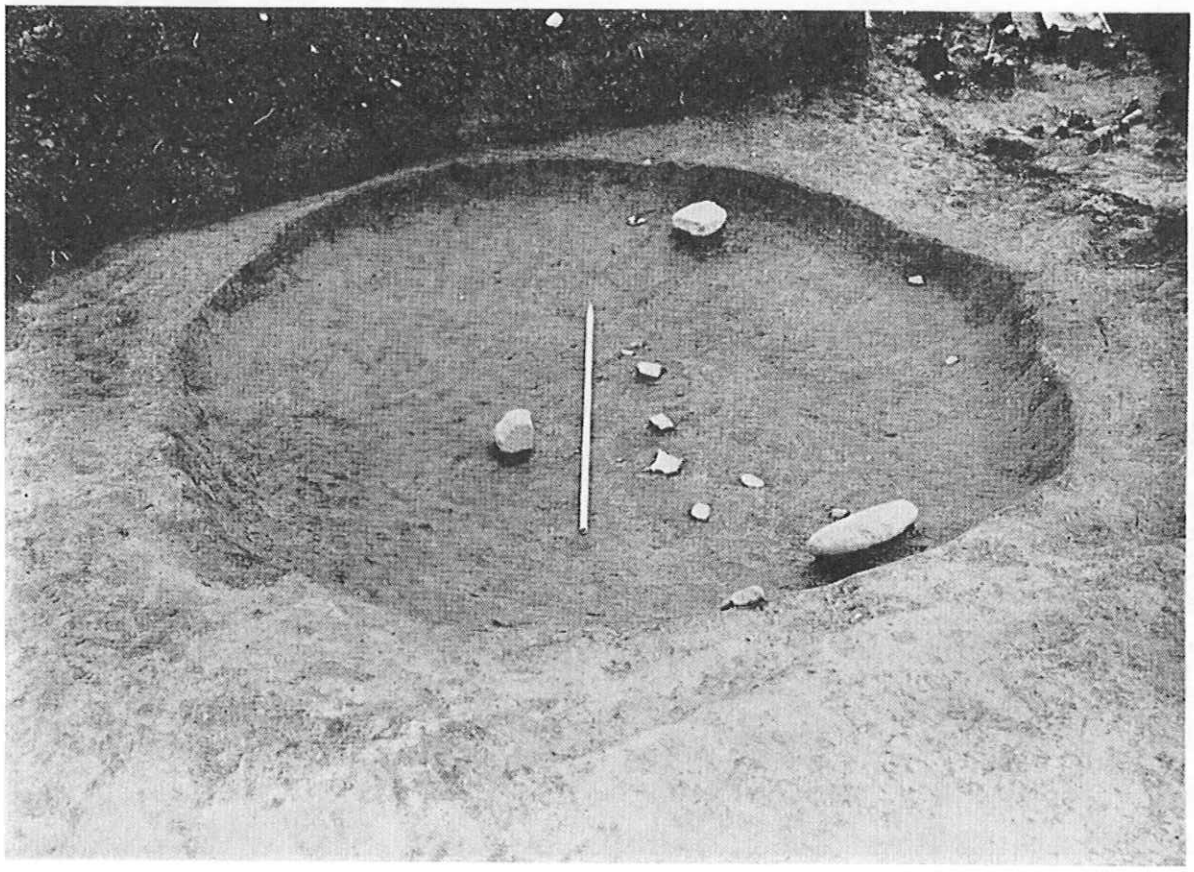


(2) No. 2 住　居　址

PLATE III

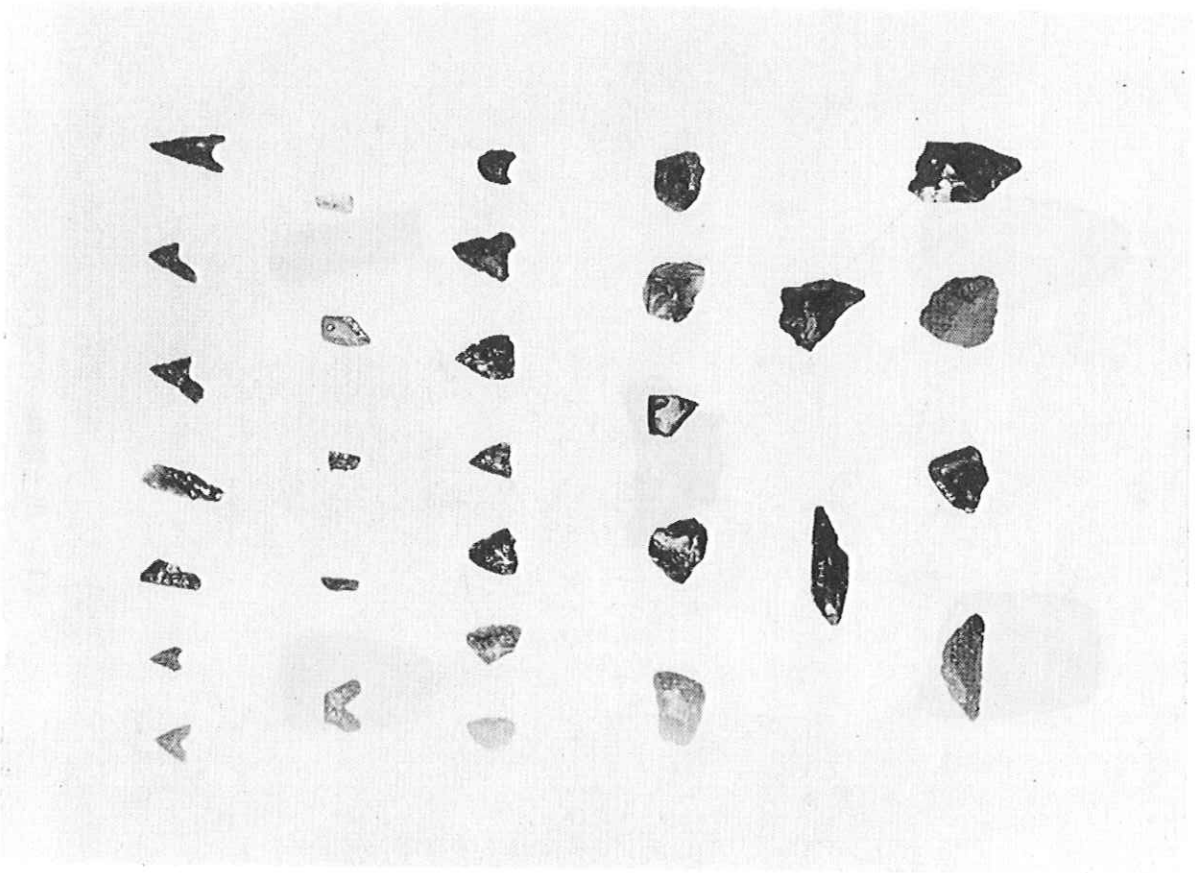


（1） No. 3 住　居　址

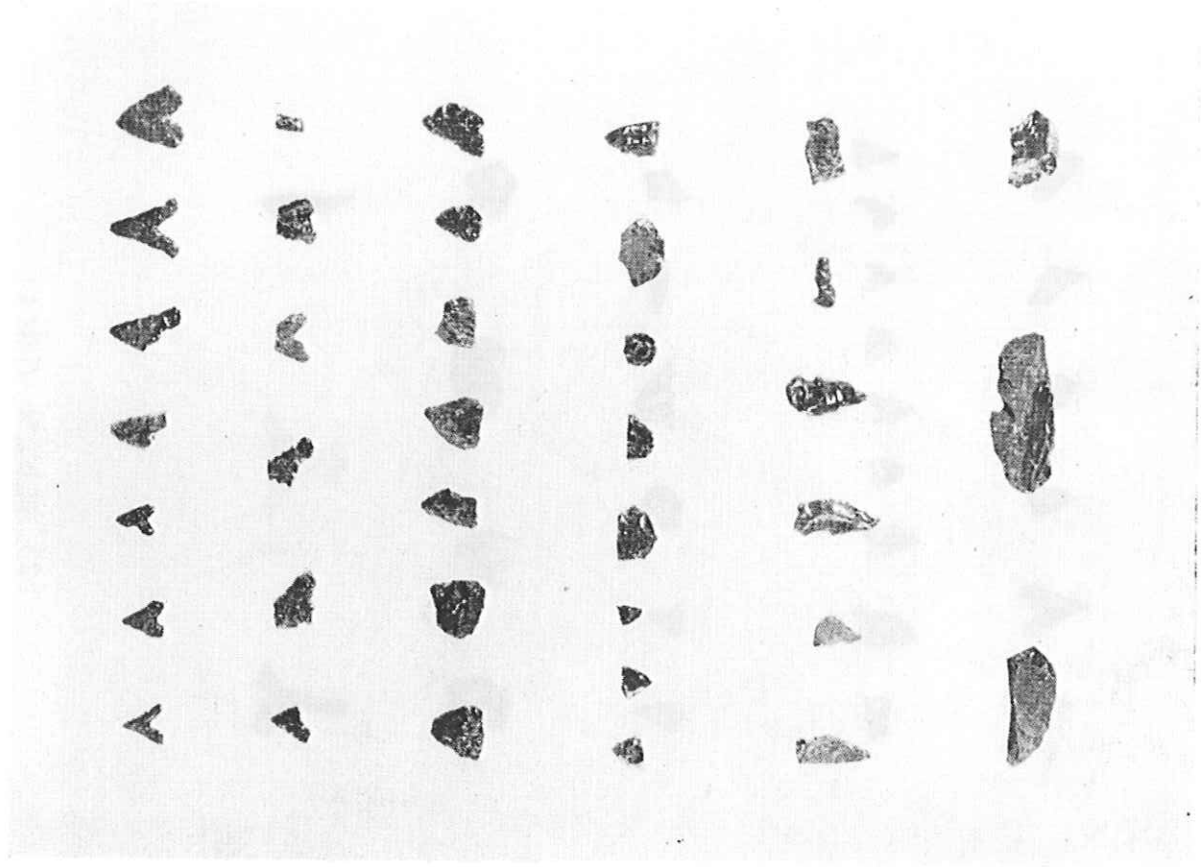


（2） No. 4 住　居　址

PLATE IV

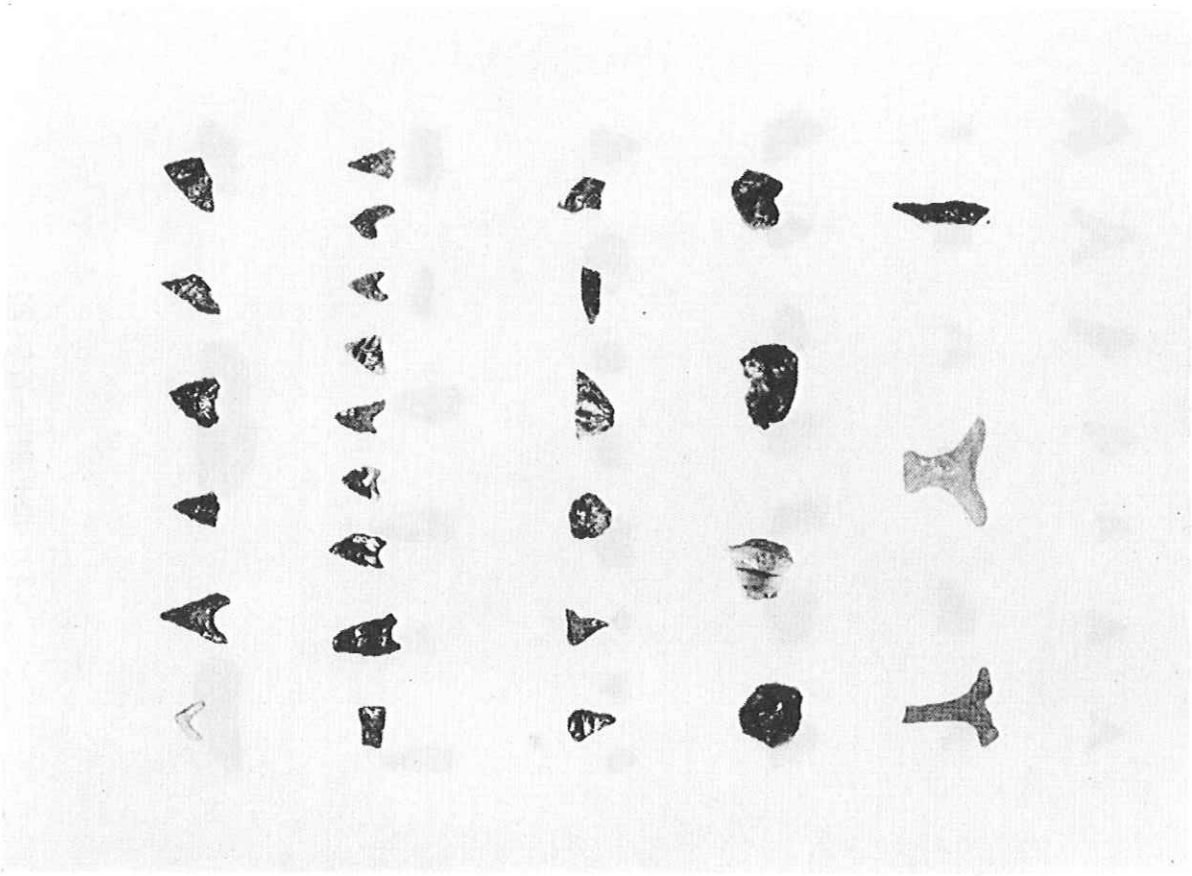


（1） 出土遺物—石器（1）

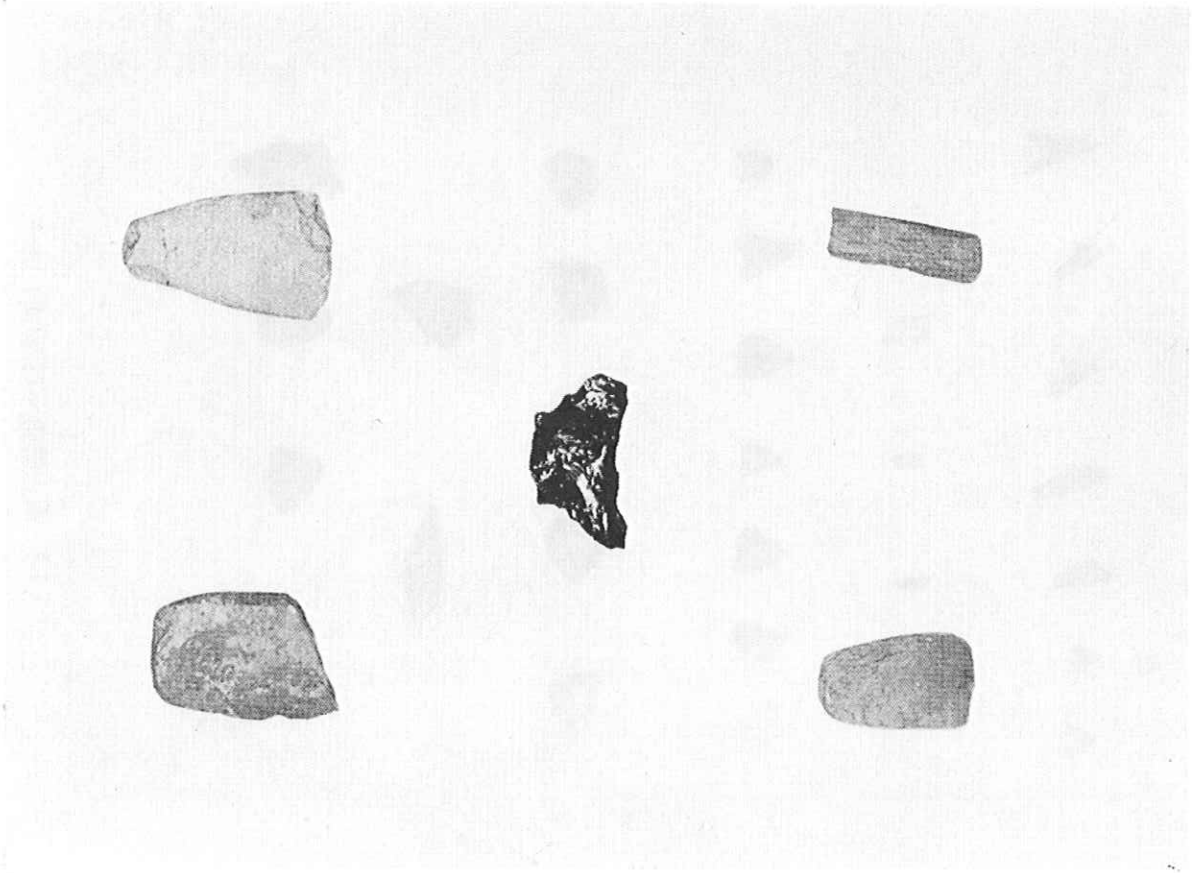


（2） 出土遺物—石器（2）

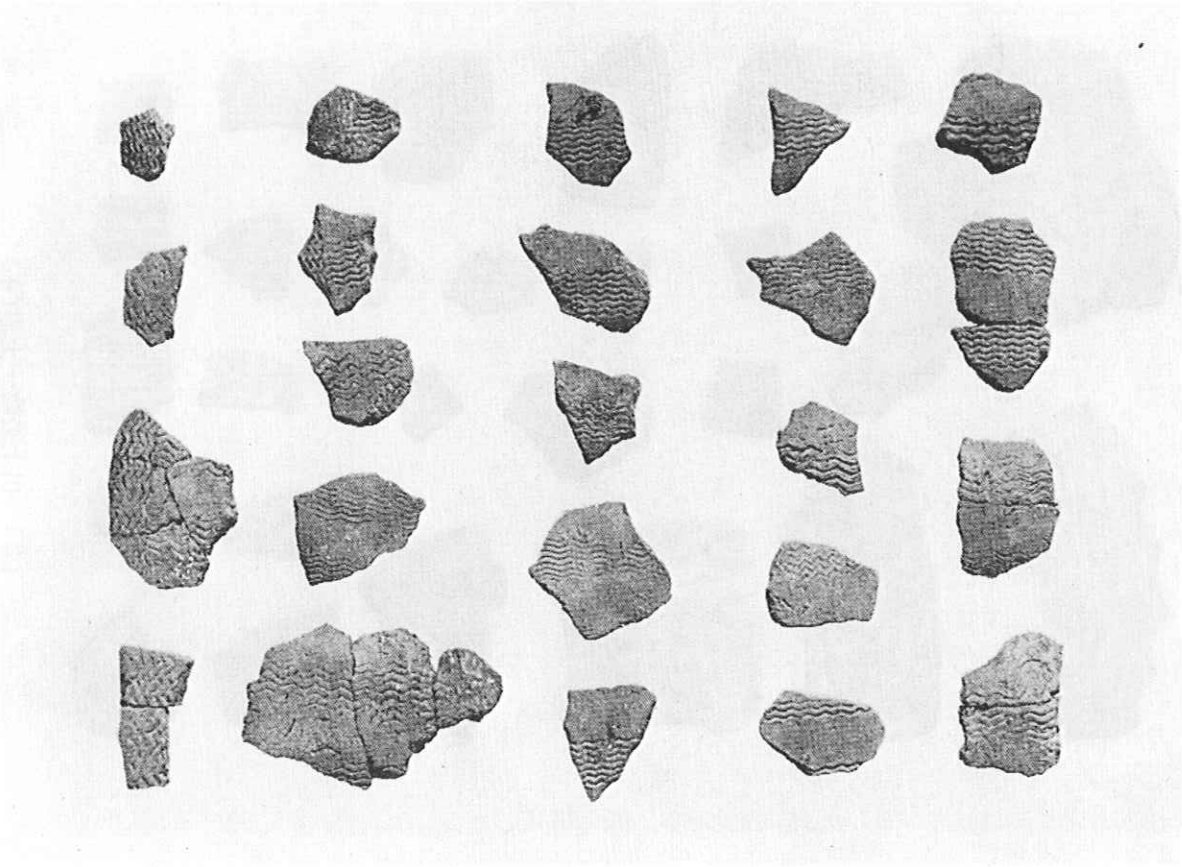
PLATE V



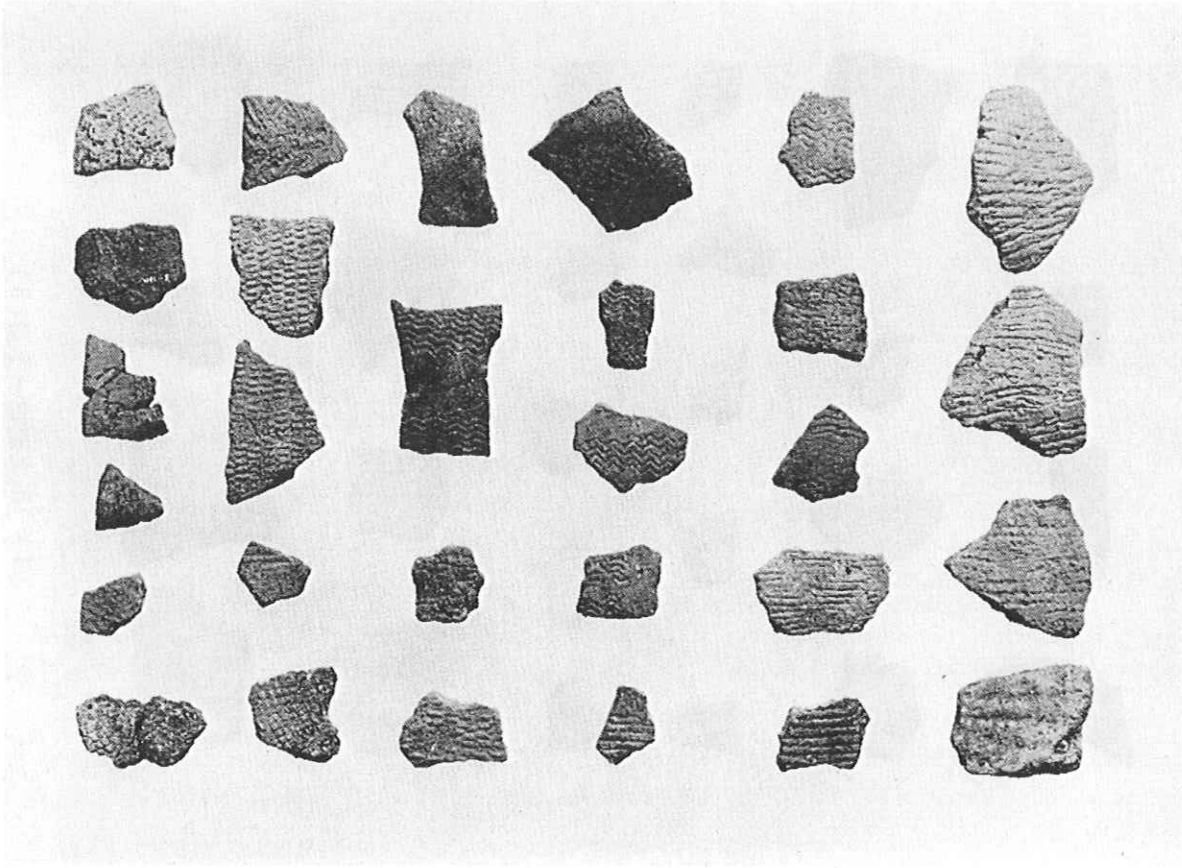
（2） 出土遺物—石器（4）



（1） 出土遺物—石器（3）

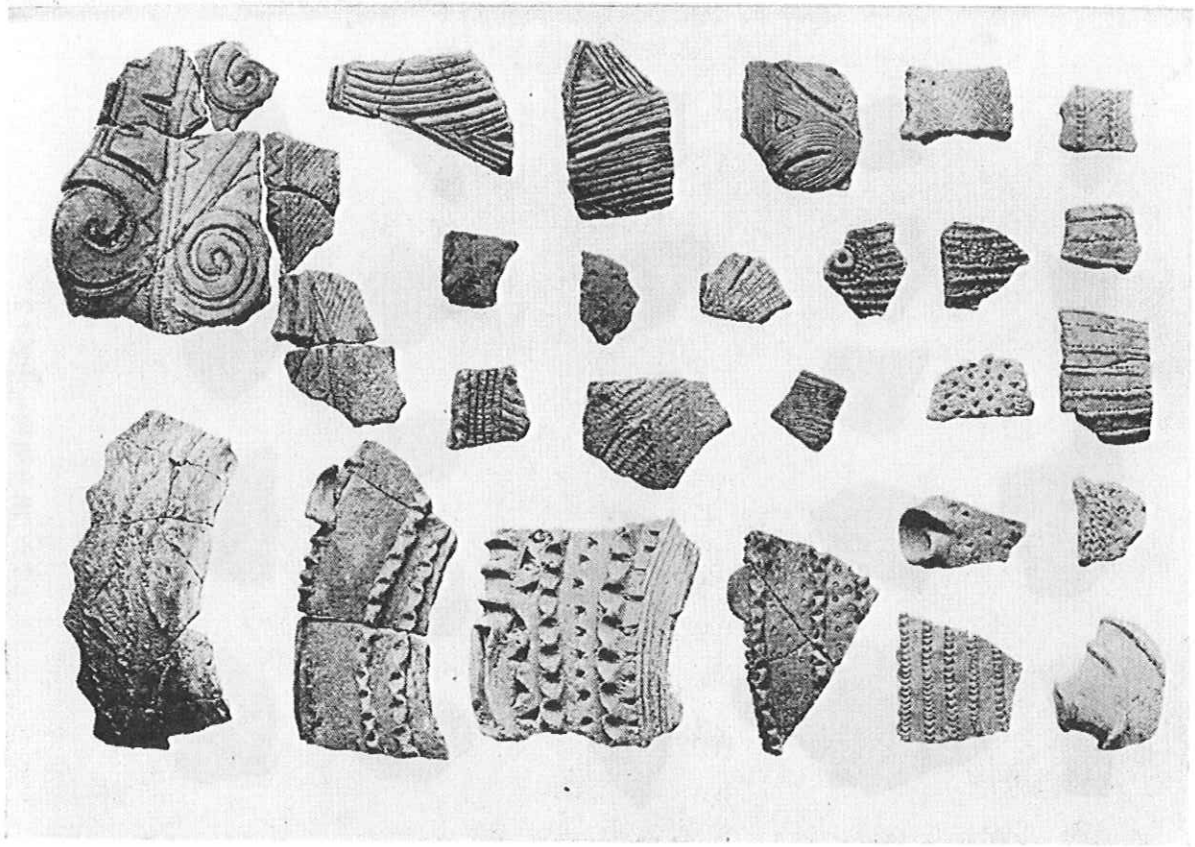


（2）　出土遺物—土器（2）

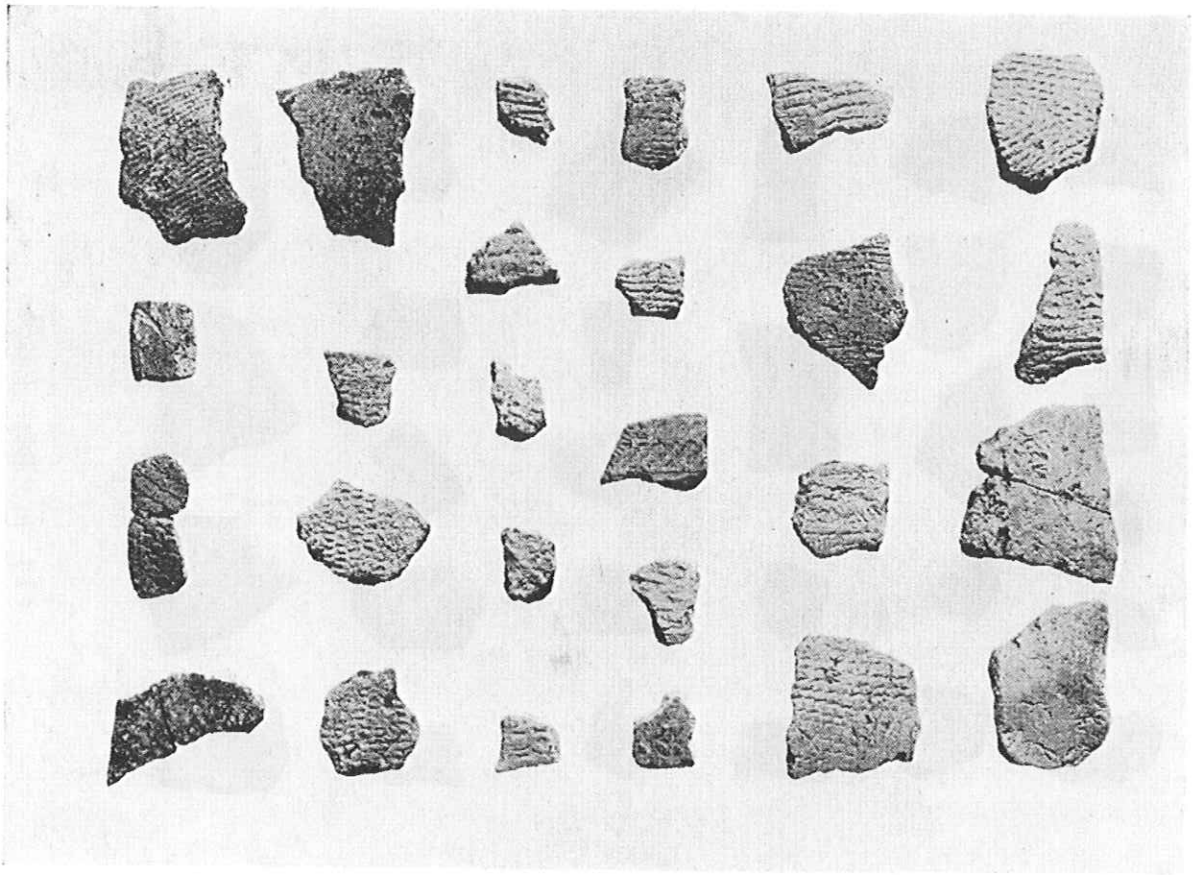


（1）　出土遺物—土器（1）

PLATE VII



（2） 出土遺物—土器（4）



（1） 出土遺物—土器（3）